「神のものとなった民」　2026 年 01 月 22 日

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるためです。あなたがたは、「かつては神の民ではなかったが、/今は神の民であり/憐れみを受けなかったが/今は憐れみを受けている」のです（Ｉペトロ 2：9～10）

著者は、福音を信じる人には、主イエスは隅の親石となり、信じない人にはつまずきの石、妨げの石となると語った。信じない人はそうなるように神に定められていたと言う。信じる人は、選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民である。神の民として選ばれたのは、闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるためである。著者は、あなたがたが主イエスを信じ、神の民になったのは、主イエスにおいて現わされた神を広く世に宣べ伝えるためであると、主イエスの救いに与った者は、福音を宣教する使命が託されていると励ましている。

そして著者は、「あなたがたは、『かつては神の民ではなかったが/今は神の民であり/憐れみを受けなかったが/今は憐れみを受けている』のです」と、預言者ホセアが神から聞いた言葉を述べている。ホセアは、自分の不幸な夫婦関係の体験から預言者に召し出され、紀元前 8 世紀、北イスラエルで預言活躍をした人である。ホセアは、ゴメルという女性と結婚した。ゴメルは最初に、男の子を産んだ。その子はイズレエルと名付けられた。イズレエルはかつて、流血の惨事があった所で、ホセア家の不幸を象徴する名であった。ゴメルは次に女の子を産んだ。その子はロ・ルハマ（憐れまれぬ者）と名付けられた。ゴメルの姦淫によって生まれたのではないかという疑いを持ち、可愛く思えないという名である。ゴメルはまた身ごもり、男の子を産んだ。その子はロ・アンミ（わが民でない者）と名付けられた。明らかに、ゴメルの姦淫によって生まれた子で、私の子どもではないという意味である。ゴメルは夫と 3 人の子どもを残し、恋人たちを追って家を出て行く。ホセアは 3 人の子どもを前にして、「告発せよ、あなたがたの母を告発せよ。彼女は私の妻ではない。私も彼女の夫ではない。彼女の顔から淫行を/その乳房の間から姦淫を取り除け（ホセア 2:4)」と嘆く。恋人たちはゴメルを愛することはない。彼女は娼婦に身を落とす。この時、神はホセアに命じる。「行って、ほかの男に愛され、姦淫を繰り返す女を愛せよ。これは、イスラエルの子らが他の神々のもとに赴き、干しぶどうの菓子を愛するのに、主がなおも彼らを愛しているからである（ホセア 3:1b)。」ホセアは神の言葉に従い、金品でゴメルを贖う。ホセアの不幸な夫婦体験が事実であったかどうかは分からない。北イスラエルが異教の神々にひれ伏す偶像礼拝に陥ったことを例えているのは確かである。ホセア書 2 章 25 節に、「ロ・ルハマ（憐れまれぬ者）を憐れみ/ロ・アンミ（私の民でない者）に向かって/『あなたはわが民』と言う」と書いている。パウロは、異邦人が神の救いに与ったことを、ホセア書から「私はわが民ではない者をわが民と呼び/愛されなかった女を愛された女と呼ぶ。『あなたがたは、わが民ではない』/と彼らに言われたその場所で/彼らは、『生ける神の子ら』と呼ばれる（ローマ 9:25～26)」と書いている。著者は、異邦人読者に対し、あなたがたは神の民ではなかったが、憐れみを受け、神のものとなった聖なる民であると、今与えられている恵みを力説している。